

作者が  
皆々へ



市の中央を流れる、母なる川「入間川」。その向うには、奥武蔵の山並みと秩父連山、そして富士山が雄大に見えます。工業団地のある新狭山駅周辺、水田の広がる奥富、人工林と火田の新田開発で名高い堀兼、お茶畑の広がる水野と武蔵野の雑木林は、文学の香りも高い里山風景が見られます。

狭山の風景100景を巡り、一応筆を置きます。100景はあくまでも、個人の選びましたもので市内には、まだたくさんすばらしい風景があるはず。これを機会に今一度再発見の小さな旅に出かけようとおもっています。

池原 昭治



新連載スタート！

広報さやま9月号から「さやまの昔はなし」の連載を開始します。新連載は、昔から語り継がれている市内独特の言い伝えなどを池原さん流の描画で読みやすくまとめたもの。本格昔話や年中行事など多岐に渡るもので、狭山の歴史を知る入門書のような読み物となっています。

最後に新連載に向けて池原さんから一言いただきました。「新連載は、『残しておきたい狭山の風景』のように描き込んだ童絵ではなく、子どもたちでも描けるような単純な線で仕上げました。また、子どもでも読みやすいよう、全ての漢字にルビを付けています。このコーナーをきっかけに、子どもから大人まで、楽しく狭山の昔話を知ってもらえれば嬉しく思います」

問合せ 広報課へ

内線7161

## 「残しておきたい狭山の風景」作者の6選

全100話の中から池原さんが選んだ作品を、直筆のコメントと共に紹介します



4話 24年7月号 根堀用水路の鯉



お寺の前の小川で、子どもが魚を釣っていました。まさに、日本の原風景ここにありました。

14話 25年5月号 新緑の城山砦跡



戦国時代の空堀が残り、歴史を実感できる所でした。

30話 26年9月号 川を渡る電車



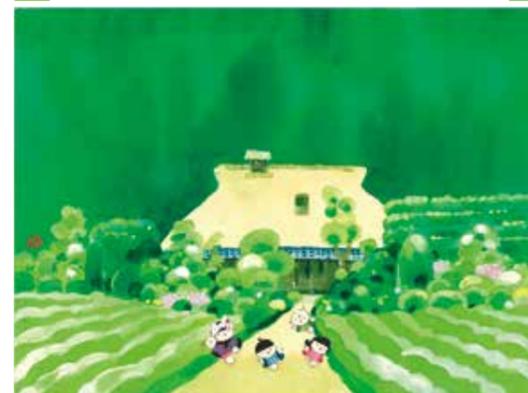
橋を渡る電車は、市内唯一の所でしょうか。

51話 28年6月号 田植えのころ



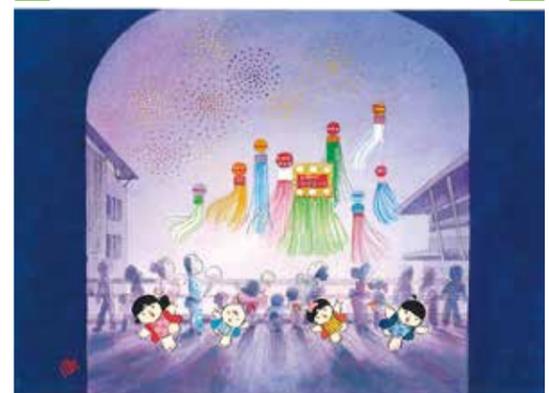
古い水田の上をツバメがスイスイ、重労働の本格昔話が、敬語面がこみこみした。

62話 29年5月号 なつかしきワラ屋根



裏ヤマあたりが、旧鎌倉街道(ほりがわりの)と書いて、歩きまわりました。

76話 30年7月号 心に残しておきたい七夕まつり



「ドーン、パババ…」 「パバ、パバ花火」 「ドドーン」 子どもたちは、ふふふわわでびびる。